

司法省日誌

十八

明治九年十二月



日本史籍協會編

司法省日誌
明治初期各省日誌集成

十八

明治九年一・二月

東京大学出版会

司^し法^{ほう}省^{しょう}日^に誌^し十^{じゅう}八^{はち}

明治初期各省日誌集成 第一期

昭和六十年二月二十八日覆刻

編者 日本史籍協会

代表者 森谷秀亮

東京都三鷹市大沢二丁目十五番十六号

発行者 財団法人 東京大学出版会

代表者 田中英夫

一一三 東京都文京区本郷七丁目三番一号
振替東京六一五九九六四

電話(八一)八八一四

印刷・株式会社 平文社

本文用紙・王子製紙株式会社

クロス・望月株式会社

製函・株式会社 光陽紙器製作所

製本・矢嶋製本株式会社

39188

ISBN 4-13-093918-1

資料は国立公文書館所蔵本による。

日本史籍協会編

司法省日誌

全二〇卷

A 5 判

平均四六〇頁

各価六〇〇〇円

明治初期各省日誌集成第一期

卷	年	代	刊行月
1	明治六年一・二月	58年9月	
2	明治六年七・八月	10月	
3	明治六年八・九月	11月	
4	明治七年一月	12月	
5	明治七年二月	59年1月	
6	明治七年三・四月	2月	
7	明治七年五月	3月	
8	明治七年六月	4月	
9	明治七年七・八月	5月	
10	明治七年九・一〇月	6月	
卷	年	代	刊行月
11	明治七年二月	59年7月	
12	明治七年三月	8月	
13	明治七年索引	9月	
14	明治八年一月	10月	
15	明治八年二・三月	11月	
16	明治八年四・九月	12月	
17	明治八年一〇・三月	60年1月	
18	明治九年一・二月	2月	
19	明治九年三月	3月	
20	明治九年四・五月	4月	

司 法 省 日 誌

十八 目 次

明治九年一月

第一號 (一月一日)

第二號 (一月九日)

第三號 (一月九日)

第四號 (一月十二日)

第五號 (一月十四日)

第六號 (一月十八日)

第七號 (一月二十二日)

第八號 (一月二十四日)

第九號 (一月二十五日)

第十號 (一月二十七日)

明治九年二月

第十一號 (二月二日)

第十二號 (二月三日)

第十三號 (二月三日)

第十四號 (二月七日)

第十五號 (二月七日)

第十六號 (二月九日)

第十七號 (二月十三日)

第十八號 (二月十七日)

第十九號 (二月十八日)

三六一

第二十號 (二月二十日)

三八一

第二十一號 (二月二十二日)

四〇一

第二十二號 (二月二十三日)

四二一

第二十三號 (二月二十五日)

四四一

第二十四號 (二月二十九日)

四六一

一
二
四
六
八
一〇
一二
一四
一六
一八

二〇
二二
二四
二六
二八
三〇
三二
三四

司法省日誌明治九年第壹號

○一月一日

午前第九時三十分判任官以下參賀

○一月四日

政始

○

任司法權大錄

裁判所權大廳野田頌容

○一月五日

新年宴會 午前第十一時奏任官以下省中於テ賜フ

○一月七日

〔達第一號大審院各裁判所裁判所各縣へ達書〕
附 廊輪

明治八年九月當省達第二十五號處決表書式第十三條但書
中未タ先發ノ刑限内ニ在ルト已ニ放免セラルトノ下
〔答杖實決ト〕ノ五字ヲ増補シ同處決囚罪狀等取調書雛
形ノ内第七處決罪犯族籍年齡宗門取調中貫属管下ノ文
字及十月達第三十四號中管内ノ文字并十月達第三十七號第
一項中管内ノ文字删除候條此旨相達候事

〔福岡縣伺〕
八年九月十九日

第一條 本年五月九十三號御布告控訴上告手續第四章
第二檢事無之地方ハ警察官之ニ代ルヲ得ト有之當縣
ニ於テハ未タ檢事ノ派出無之ニ付警察官裁判不服ナル
ルハ第三十一條ノ手續ニ因リ警察官吏ヨリ司法卿ヘ直
ニ上告狀ヲ呈セシメテ可然哉

第二條 同三十一條中上告趣意明細書ヲ作り司法卿ニ
遞送スヘシトハ罪人ノ犯狀ト裁判言渡ノ不服ト見込ム
廉々ナ條列シ差出シ候儀ニ有之候哉 但シ上告狀趣意
明細書ハ別ニ書式有之候哉
第三條 第三十二條ノ手續ニ依レハ上告ハ定期アリ檢
事ト雖モ其定期ニ違フルハ裁判其當ヲ得スシテ冤枉犯

者ニ加ハヽルモ檢事ニ於テ纔カニ二十四時間ヲ過レハ
既ニ上告ノ權ヲ失ス若シ然ルキハ犯者ハ其冤ヲ愬フル
ニ所ナク官ハ其權利ヲ護スルニ道ナシ故ニ檢事ハ犯者
ノ口供ニ檢印シ且ツ刑名宣告ノ際連班シテ其時日ヲ誤
ラサル様可致哉若シ然ラスンハ其順序ハ如何相心得可
然哉

第四條 同三十二條檢事及ヒ囚人上告ノ權ヲ失フキハ
他日裁判官ノ故失出入有之ヲ警察官吏覺知セシキハ如
何相心得可然哉此段奉伺候也

指令

第一條 伺ノ通

第二條 伺ノ通尤但書云々ハ書式ナシ

第三條 檢事ハ刑事ノ原告人ニ付刑名宣告ノ際ニ限ラ
ス獄庭ニ出テ其職務ヲ行フ可キ者ト心得ヘシ 但口
供ハ檢印スルニ及ハス

第四條 警察官ニ於テ裁判官ノ故失出入ヲ覺知スルキ
ハ檢事アル地方ハ檢事ニ報告シ檢事ナキノ地方ハ直
ニ司法卿ニ報告スル儀ト心得ヘシ

〔高知縣伺〕

八年十月廿五日

今般當縣へ裁判所被置裁判官派出ノ旨本月十三日付ヲ
以テ正院ヨリ御達ニ依リ從前聽訟課ニ於テハ聽斷事務
一切差扣罷在候ニ付右官員早々出張相成度上申候也

指令

書面ノ趣認獄事務官員出張候迄ハ從前ノ通可取扱ハ勿
論ノ事ト可相心得候事

○

任大審院權中属

四級判事補日

置

貫

○一月八日

〔神奈川縣伺〕

八年十二月廿四日

當地裁判所へ檢事出張相成候迄ノ處本縣警察官吏ノ心
得方本年六月二十九日附警第千四百六十五號ヲ以テ相
伺置候處同年十二月附御省第四十四號裁判所ヲ置サレ

各縣ト仰記載有之候ヘ_ニ無檢事ノ地方ハ警察官之ニ代
ルヲ得ルノ旨公布モ有之候上ハ右第四十四號御達ニ基
キ相心得可然哉此段相伺候也

指令

伺ノ通

（橡木裁判所伺）

八月廿八日

相模國大住郡八幡村平民伊藤留五郎儀去ル慶應三年十
月二十五日同郡久松村馬商小林庄助甲斐國出生松野文
四郎其他同行ノ途中山林ニ於テ右庄助ヲ殺害ニ及ヒ置
逃走致シ候ニ付右文四郎其他ノモノ共捕縛窮訊ニ及ヒ
假口供既ニ相成ル後文四郎等昨明治七年中牢死致シ本

犯儀ハ昨年十一月中兵庫縣ニ於テ就縛ニ付一旦同所裁判所ヘ吟味筋依頼スト雖モ白狀不及旨申越スニ付本年一月中當裁判所ヘ拘引致シ追々糾彈數回ニ及ヒ候ヘモ強頑ニシテ眞情ヲ吐露セス其都度前供ヲ反異スルヲ以テ今假口供成ルニ至ラスト雖モ文四郎等ノ口供ヲ初メ猶他ニ憑証ス可キ連累等モ有之ニ付右ノ廉ヲ以テ巡廻裁判所ヘ引繼候様致シ度候ニ付今般右場所ニ於テ引請相成候様御指揮被下度書類之相添此段上申仕候也

指令

書面本犯假口供拇印ヲ捺スルニ至ラスト雖モ其事件難獄ニ涉ルヲ以テ書類取揃巡廻裁判ヘ差出可申事

〔達書〕

十五等出仕山下 光 茂

同 鈴木 千一郎

東京上等裁判所詰申付候事 各通

○

任司法權大錄

司法中錄荒 川 邦 藏

○ 一月九日

〔達第二號各裁判所裁置サル所各縣へ達書〕輪廓附

從前民事呼出ノ上拘留致候儀有之哉ニ候處右ハ不都合ノ儀ニ有之自今不相成候條此旨相達候事

〔滋賀縣伺〕八年六月四日

第一條 去ル三月二十三日附テ以テ地所家作等ヲ他人ヨリ賃借スル者其地所家作附キノ樹木并器物等ヲ典賣スル者ノ儀ニ付再度相伺候所先般伺ノ第二三條不應爲輕重ニ問ヒ云々又但書一時融通ノ爲メ云々ト及指令置候所今般左ノ通改正ス本條盜情アル者ハ伺ノ通盜ニ準シテ論ス若シ盜情無キ者ハ不應爲輕重ニ問ヒ相當ノ賠償セシム可シ但書貸主ヘ告ケス一時融通ノ爲メ他ニ典賣シ償還ノ念アル者ハ本條盜情無キ者ト同シ若シ賠償ノ資力無キ時ハ民法身代限ノ法ニ依ルト御指令アリ前顯貸主ヘ告ケス他ニ典賣シ償還ノ念アル者其典賣スル

所ノ物品他ニ現在スルニ本犯無力ニシテ賠償スルヲ能ハサルハ本主ノ損失トナシ典買者ヨリ追徴スルヲハ無之哉又ハ其物品現在スル者ハ典買者ヨリ直ニ追徴シ其代價ハ本犯ヨリ典買者ヘ賠償セシメ候哉 但本文民法身代限ハ一時ノ追徴ニ止メ他日身代持直シ候共再ヒ賠償セシムルニ及ハス候哉

第二條 子弟私擅用財ノ如キハ律ニ正條無之ト雖モ父兄ヨリ自ラ告ルニアラサレハ其罪不問ニ置ク可キ儀ト相心得可然哉此段相伺候也

指令

第一條 典買主ヨリ直ニ追徴シ本犯ヨリ典買主ニ還